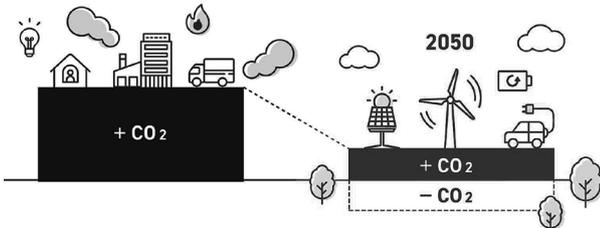


知立市は2022年2月に「2050年、ゼロカーボンシティ」を表明し、脱炭素社会（ゼロカーボン）の実現に向け取り組みを進めていくことを宣言しました。

ゼロカーボンって何？



出典：脱炭素ポータルホームページ

二酸化炭素の「排出量」と、植物や海など自然の「吸収量」を差し引きして、これ以上二酸化炭素の量を増やさない状態（カーボンニュートラル）になることをいいます。

日本では、2050年の脱炭素社会実現に向け、その中間点として、2030年までに、二酸化炭素排出量を（2013年度比）46%削減することを目標としています。

脱炭素社会の実現は世界共通の目標となっており、一人ひとりの行動が必要です。

知立市は家庭の脱炭素化を支援します

知立市では、政府の方針を受けて、環境基本計画を改定し、家庭部門の二酸化炭素排出量を2030年度までに（2013年度比）66%削減することを目標としています。

そして、家庭部門の脱炭素化を推し進めるため、住宅用地球温暖化対策設備補助金の制度を設け、脱炭素化に向けてご家庭の、創エネ、省エネ、蓄エネにつながる設備の導入の支援をしています。

表：部門・分野別二酸化炭素排出削減目標

目標設定	産業部門	業務その他部門	家庭部門	運輸部門	廃棄物部門	合計
2013年度排出量（基準年）	103	87	103	110	8	410
2030年度目標	64	43	35	72	7	221
2013年度からの削減量	39	44	68	38	1	189
2013年度からの削減率	38%	51%	66%	35%	14%	46%

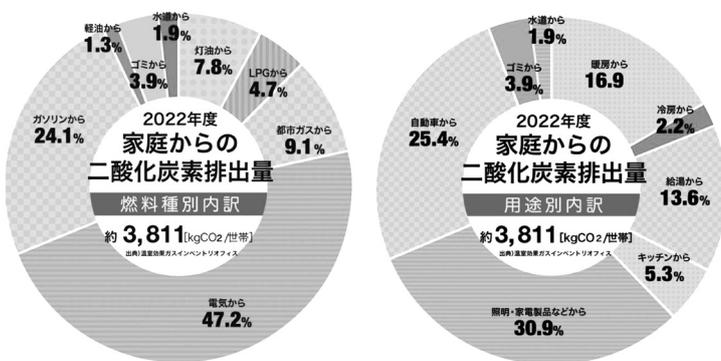
出典：第2次知立市環境基本計画（改定版）
※四捨五入等の関係により目標値と削減量、削減率の数値が合わないことがある。

2022年度の実績（出典：環境省「自治体排出量カルテ」）
家庭部門の排出量は8万3千t-CO₂
⇒2013年度からの削減量は2万t-CO₂、削減率は19%となっています。

※補助金について詳しくは市ホームページをご確認ください。▶

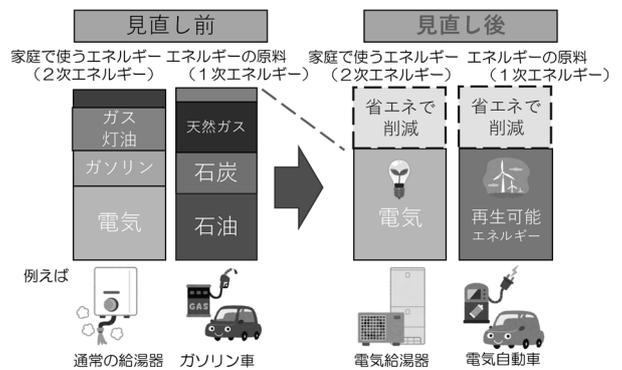


家庭でゼロカーボンのためにできること



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

家庭からの二酸化炭素排出量のうち、燃料種別内訳では「電気から」が、用途別では「照明・家電製品などから」「暖房から」「給湯から」と家庭の設備からの排出量が多くを占めています。



家庭の設備を見直し、可能な限りの省エネを行ったうえで、削減しきれない部分については、再生可能エネルギーを原料とするエネルギーで賄うことで、家庭の脱炭素化を行うことができます。



7つの補助対象設備の紹介

つくる … 創エネ エネルギーを創る

つかう … 省エネ エネルギーをかしこく使う

ためる … 蓄エネ エネルギーをためる

2 ZEH (ネットゼロエネルギー住宅)

年間の効果※2

電気代削減	188,010円
CO2削減	3,543kg

一体的導入のみ つかう

使うエネルギーが創るエネルギーより少ない、
または同じ住宅のこと

- ・断熱性能が高く、冷暖房の効きがよいため電気代の節約になる。
 - ・太陽光発電と蓄電池があると、災害時も安心。
- ※太陽光発電、HEMSを同時に設置する場合に限り補助の対象となります。

4 定置用リチウムイオン 蓄電システム (蓄電池)

年間の効果※1

電気代削減	50,360円
CO2削減	949kg

ためる

太陽光発電などの電気を
一時的に蓄え、他の時間帯で
利用するための機器



- ・太陽光発電で発電した電気を蓄えて、発電しない時間帯に使うことで電気の購入量を軽減できる。
- ・電気料金の安い時間帯に発電し、高い時間帯に利用することで電気代の節約になる。
- ・災害時など停電した場合でも、蓄電池の電気を使える。

6 電気自動車等 充電設備 (V2H)

年間の効果※1

電気代削減	35,000円
CO2削減	840kg

つかう

電気自動車やプラグイン
ハイブリッド車に搭載されて
いる大容量バッテリーの電力を
住宅等へ供給できる機器



- ・電気の安い時間帯にクルマに充電し、電気が必要な時はクルマから給電し、電気代の削減につながる。
- ・クルマが、停電時の非常用電源となる。

スギの木が一年間に吸収する二酸化炭素の
吸収量は1本あたり8.8kgとされています。

CO₂ CO₂ CO₂

出典 林野庁「森林はどのぐらいの量の二酸化炭素を吸収しているの?」

1 太陽光発電

年間の効果※1

電気代削減	40,310円
CO2削減	760kg

一体的導入のみ つくる

自宅の屋根などを使って
太陽の力で発電します。



- ・自宅で消費する大部分の電気をつくることもできる。
 - ・電気代の節約になり、災害時に電気を使える。
 - ・使わない電気は買い取ってもらうこともできる。
- ※HEMSに加えて、ZEH、蓄電池、V2Hのいずれかを同時に設置する場合に限り補助対象となります。

3 家庭用燃料 電池システム (エネファーム)

年間の効果※1

電気代削減	117,430円
CO2削減	921kg

つくる

都市ガスやLPガス(プロパンガス)
から作った水素で発電します。
同時に、発生する熱から温水を
つくります。



- ・自宅で発電するので、送電ロスがない。
- ・都市ガスやLPガスは化石燃料の中でもCO₂排出量が少ない。

5 家庭用エネルギー 管理システム (HEMS)

年間の効果※1

電気代削減	13,030円
CO2削減	246kg

つかう

電気の使用状況が見える化し、家電製品を
コントロールして、効果的な省エネ、節電を
自動的に行う機器

- ・エネルギーの「見える化」ができる。使用状況を監視し、傾向がわかるため、電力消費のピークカットや年間を通じた省エネが可能。
- ・エネルギーの「一元管理」ができる。自動で制御できるほか、スマホやタブレット端末、PCから遠隔操作も可能。

7 住宅用太陽熱 利用システム

年間の効果※3

電気代削減	38,839円
CO2削減	470kg

つかう 太陽の熱を集めて温水や温風をつくり、
給湯や冷暖房に利用するシステム

強制循環型システムと自然循環型太陽熱温水器
の2つのタイプがあります。

- ・太陽の熱でお湯を沸かすため電気代、ガス代の削減につながる。
- ・自然エネルギーの利用でCO₂の削減につながる。

※1 出典: あいちCOOLCHOICE取り組み例 (自宅でCOOLCHOICE)

※2 出典: 環境省ゼロカーボンアクション30 (レポート2021)

※3 出典: (一社)ソーラーシステム振興協会

